

# 教文 digital 通信 電子版

発行所 長野県教文会議

発行人 寺尾 真純

No.1 2020.6.15

1. アンケート「新型コロナウイルス感染症の下でのオンライン学習・授業・特別活動について」集計結果

## アンケート「新型コロナウイルス感染症の下でのオンライン学習・授業・特別活動について」にご回答、ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症防止対策として、臨時休業後、分散登校（5.16-22、5.23-5.31）が実施されてきました。「県立学校再開ガイドライン」（2020.5.27）が提示され、6月1日より通常登校に切り替わりましたが、今後、新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に備えるために引き続き教育活動に対する条件整備を拡充するよう要請する必要があります。学びの保障は「生徒・教職員の命を守る」ことが大前提です。

本アンケートへは各校の教文委員にご回答いただきました。アンケートは4月から6月5日までの2ヶ月間の状況に関するもので、47校から回答がありました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

## 【アンケート結果 概括編】

**\* すべてのアンケート結果は以下のページをご覧ください！**

1. 「オンライン学習・授業」では遠隔学習の環境が整っている生徒への対応ができている学校は約60%でした。学校から生徒へWi-fiの貸し出しがなされましたが、プリント等の印刷を配布して対応した学校もあります。県教委は非課税世帯の生徒の調査をし、Wi-fiと使用料の措置をしましたが、非課税世帯以外で環境が整っていない生徒への貸与が急がれます。一方、生徒への対応ができていない学校は40%で、家庭状況が様々で環境整備に困難が伴う、通信費の経済的負担、プリンターが無い、端末がスマートフォンで限界があるという回答がありました。

2. オンライン学習・授業で使用するアプリはGoogle、Zoom、YouTube、Classi、学校ホームページなどを使用しています。活用目的は授業課題配信、動画配信、ホームルームなどに活用する学校が8割近くを占めます。Classiについては4月以降、外部からの不正アクセスや接続しにくいといった報告が学校現場から寄せられました。e-portfolio等で利用す

る学校も多く、すでに学習や特別活動などの記録データを入力しているところもあります。生徒の進路指導や個人情報に関わる大切なデータであり、慎重な運用がなされるべきです。

3. オンライン学習・授業の利点は、「生徒の顔が見える、声が聴ける、直接コミュニケーションがとれる」「生徒が自分のペースで学習できる、何度も授業内容を確認できる」「授業の一部代替ができる」などの回答がありました。問題点については「オンライン学習の設備環境、機器に関する生徒の知識技能面の課題」「生徒への学習指導、状況・理解度の把握が困難」「実技・実習教科は授業が困難」などの指摘があります。

4. 「学校の教育活動」は、アンケート回答が5月中であったため、文化祭、修学旅行、クラスマッチなど「検討中」が60%を占めました。開校後の教育課程では、長期休業期間の短縮、行事の縮減が多くの学校でなされるとの回答でした。進路指導に関しては、例年より1か月遅れとなりました。

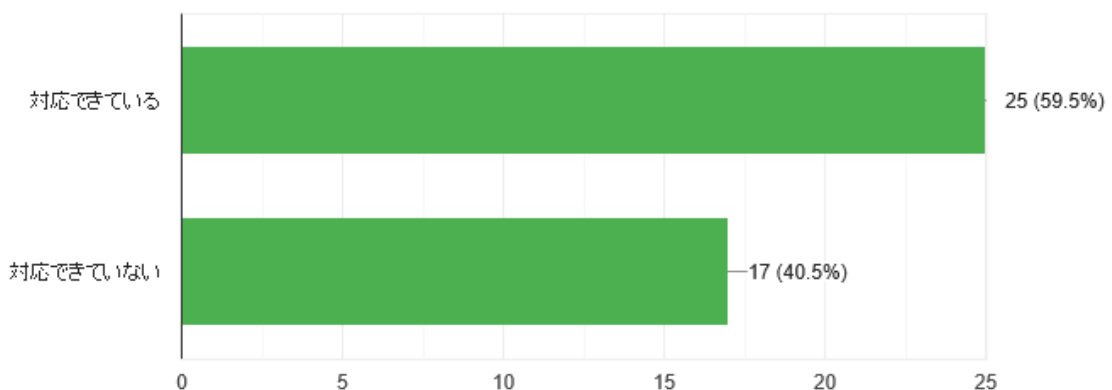
5. 「学校活動に必要な緊急の対応と対策について」では「コロナ感染症への具体的現場での対応方法」「生徒のカウンセリング、相談窓口の運営」「安全に学校生活を送れる備品の確保」「クラスサイズ縮減の必要性、40人学級と感染症予防について」「1年生の不安、3年生の就職、大学進学など進路保障」「経済格差と教育環境、学びの格差」など切実な要求が出されています。県から発出されたガイドラインや変更指示がありますが、解決されるべき課題や今後、中長期的に解決し、検討すべき問題も多くあります。引き続き情報の交流を続けていく必要がありますのでご協力をお願いします。

## 【アンケート結果】

### オンライン学習・授業について

オンラインを使った学習・授業を行うための環境が整っていない生徒への対応について

42件の回答



**上記質問で「対応できている」と回答された場合、どのような方法で対応されているかをお書きください。**

- ・ 県からの補助を利用した
- ・ 就学給付金受給世帯（2・3年）・住民税非課税世帯（1年）に希望調査を行い、モバイルルーターの貸出を行う
- ・ 学校からのデバイスの貸し出し・紙媒体での情報提供
- ・ 登校して図書館などで学校のタブレットを使って学習
- ・ 家にwi-fi環境のない生徒は登校して受けられる。ポケットwi-fiの貸し出し
- ・ オンライン学習が困難な生徒は学校に出てきて個別に授業を受けるよう連絡した。
- ・ 動画の視聴環境が整っていない生徒に対しては機器を貸与。
- ・ 環境が整っていない生徒を把握し、保護者の承諾を得た上で、登校して授業を受けさせる
- ・ 分散登校時にプリントを印刷して配布している。
- ・ 登校時や担任を通じてできる範囲で対応しているが完全ではないと思われる
- ・ 全員がWIFIインターネット可能な状況であった為
- ・ ipadの貸し出し
- ・ リアルタイムでのオンライン授業は今のところ実施していないので、校内の情報処理室にて時間を区切って視聴できるように対応している。
- ・ 生徒はスマホまたはPCを持っているので一応オンライン学習が可能になっている。しかし、スマホだけの生徒で契約上容量の上限があり、十分にオンライン授業が受けられない生徒もいるらしい。（Wifi環境の差がある）
- ・ 該当者なし（ただし該当者いた場合DVD等で対応、wifi貸し出し（県からの）など）
- ・ 登校してパソコン室を使用（対象生徒は限定）
- ・ 1、2年生は昨年度からの「未来の教室」実証事業による一人1台パソコン。3年生は各自のスマホ
- ・ スマホのポケットwifiのかしだし
- ・ Wifi端末を貸し出す。
- ・ 一部整っているコースで実施した。
- ・ 携帯各社の無制限支援／紙ベースでの配布や郵送での対応
- ・ 学校に登校させて、タブレットを貸し出して授業の補償をした。
- ・ 授業内容をプリントとDVDを作成して渡すことで対応。また、長野県の補助を受けられる対象の生徒には速やかに申し込み、機器の貸与などの補助を受けた。
- ・ タブレット貸し出し
- ・ 登校し学校の機器を使って学習する

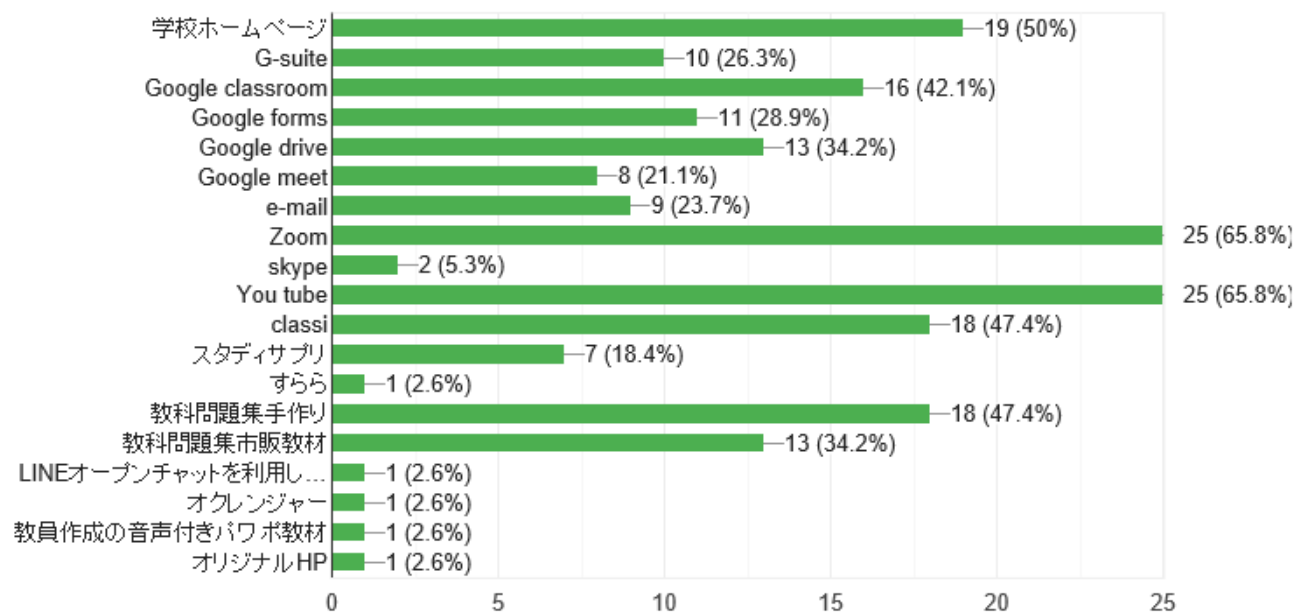
**上記質問で「対応ができていない」と回答された場合、困難点をお書きください。**

- ・ 金銭面
- ・ 全員がフリーのWifi環境を持っていない、パソコンやタブレットがない

- ・スマートフォンで回答可能な Google フォームを用いた全校アンケートを実施したところ、家族共用のパソコンを利用可能な生徒が 26%、家族共用タブレットを利用可能な生徒が 11%、自分専用パソコンを所有する生徒が 5%、自分専用タブレットを所有する生徒が 14%という結果だった。
- ・複数選択可のアンケートであったため、正確な割合は不明なものの、少なく見積もっても約 5 割の生徒が、スマートフォン以外の学習に使用可能な情報機器を所有していないという現状がある。
- ・スマートフォンのみでは、双方向のオンライン学習・授業を実施するには限界があると考えられるので、家庭にて環境が整っていないことが大きな困難点であると考えます。また、こうした現状から推測するに、Google ドライブを用いた課題配付にも限界がある。PDF データを印刷しようにも、家庭にプリンタがないと予想されるからである。
- ・(授業するには不向きな) スマートフォンしか所持していない生徒が大半である。スマートフォンを所持していない生徒には「当面の間」ということで貸し出しがあったが、いつ引き揚げられてしまうか不安。
- ・対応というか、まだ、オンライン授業については、全体としては行っていない。(一部授業配信した講座や、classroom などを使い始めた担任がいるという程度) そのため、対応については、これから。
- ・予算の問題、生徒の環境についての状況把握の困難さ
- ・家庭で環境が整っているのかすら把握出来ていない。
- ・実習を伴う教科が多く、オンラインではまかなえないものが多い。
- ・現在、自宅にネット (Wi-Fi) 環境が整っているか調査中の段階。
- ・学校で貸与することのことだが、実際はどうなのかわからない。
- ・「通信環境が整わない」「(動画等を観る) 端末がない」という生徒に対しては、「見られなくても心配しなくていい」というアプローチしかできていない。
- ・Wifi 環境、生徒所有の PC、タブレットが整わない生徒への物的な支援ができていない (金銭的な問題)
- ・生徒の家庭での学習環境 (設備面・環境面)
- ・経済的に苦しい家庭が多く、通信環境を整えるだけでは済まないため。
- ・PC やタブレットが無い家庭、WiFi が使えぬ家庭などが相当数有る
- ・生徒個々の家庭状況が様々なので、オンライン可能な環境をつくらせられない

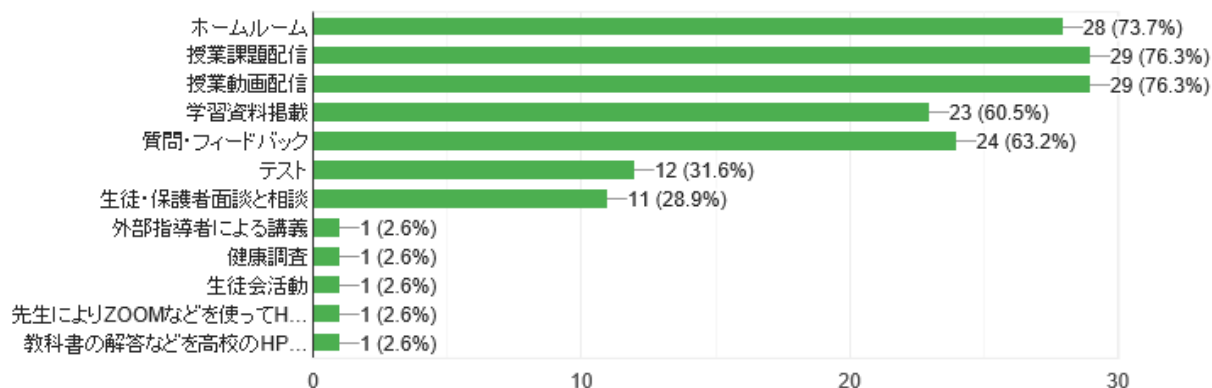
オンライン学習・授業に利用しているものについてチェックをしてください。

38件の回答



上記で使用しているものの活用目的についてチェックをしてください。

38件の回答



上記グラフの記述で表示されていない部分

- ・先生により ZOOM などを使って HR や面談を実施している。
- ・教科書の解答などを高校の HP にアップする

## 新型コロナウイルスの下でのオンライン学習・授業の利点

- ・ 金銭面
- ・ 休業期間中に生徒とコミュニケーションをとりながら、少しでも授業を進めることができる。
- ・ 定期的に開催することにより、生徒の生活習慣を回復することができた。何より、生徒の顔を見て安否確認できたこと、生徒同士が交流できたことは大きかった。また、その後の分散登校開始に向けて意識づけをすることができた。
- ・ 飛沫感染がなく、顔が見ることができるので様子がわかる。しかし、顔を出してくれない生徒も多い。
- ・ Google フォームにて確認テストやアンケートを実施することで、リアルタイムに集計ができたり（集計作業が不要）、対面せずとも現状を把握することができたりする点が利点だと考える。また、YouTube等にアップロードされている、良質な解説動画を紹介し、活用できる点も利点である。
- ・ 省資源・密を避けられる・普段の授業ではなかなか使えていない動画教材等を積極的に使える。また、本格的に行っていないのでなんともいえない。
- ・ 授業の一部代替ができる、学習教材の補足説明ができる
- ・ 生徒のペースで学習できる。何度も繰り返し確認できる。集中することができる。
- ・ 登校せずに授業の一部代替え・課題の配信・生徒の心身のケア・相談・生徒がわからない箇所を繰り返し確認できる
- ・ 画面越しだが、生徒と関われる。顔が見える、声が聞ける。
- ・ 授業進度を停滞させずに進めることができる。
- ・ 挙げられている点に加え、グーグルフォーム等の活用により、気軽に質問ができること。
- ・ まだまだ限定的ではあるが、オンライン授業ではある程度、生徒との双方向のやりとりができる。
- ・ 授業の一部代替ができる。現地に行かなくても他校の先生の授業を見ることもできるので、研修のようなものが気軽にできて有り難いという意見もありました。
- ・ 生徒の状況に応じた対応が出来る。
- ・ 生徒の状況を確認できる。休校中も課題を提示できる。
- ・ 課題の内容について文面だけでは伝わらない細かな部分の説明ができる。
- ・ 実習科目などの作業風景を見せることができている。
- ・ 登校指導日のプリント配付だけでは不十分なので、複数教科がオンラインを実施して授業に近い学習形態をとることができる。
- ・ 生徒とつながっている感じがする。
- ・ 授業の一部代替ができる
- ・ ただ課題を渡して予習しなさい、復習しなさい、という形よりは、教科書の範囲を進められる、という点では有効だと思われる。
- ・ 生徒からも「(教員の)顔が見られる」ことへの安心感があったようである。
- ・ 授業の構成がちゃんとできれば、生徒は通常の教室授業よりしっかりと学習をする。(と思う)教員も在宅勤務でも授業ができる
- ・ 「すらら」による個別最適学習、自分のペースで学習を進められる(1, 2年)
- ・ 双方向性の確保や、意見の共有などは従来の教室での授業にはないスピード感でできる。また成績管理

などの観点からも、教員の負担を減らす可能性を秘めている。

- ・登校できないときの代替え
- ・「双方向のオンライン授業をする時間がなかなかとれない」という声を聞きました。
- ・オンライン上のフォルダに課題を入れておくことで、生徒のペースで学習を進められる。
- ・これから策を講じるころだが、学習を進める手助けにはなるかと思う。
- ・生徒にとっては、登校日と同じ日程でオンラインをすることで、一日の過ごし方にけじめができたり、学習習慣の確立につながったようだ。また、動画配信した授業は繰り返し見ることができて、わからないところを確認しながら自分のペースで学習することができたという声を聞いた。
- ・教員側としては、ズームを利用して朝のホームルームを行ったが、生徒と直接コミュニケーションを取ることができてよかったと評価する声があった。また、オンラインの授業を工夫することで、日頃の授業に見直しにつながったり、新しいアイデアを生み出すきっかけになったとの評価もあった。
- ・家庭において教科への関心を向けるきっかけになる。(全て) 生徒の顔を見ることができる。マイクの on, off を教授者ができる。デジタル教科書を使用できる。(Zoom) 健康観察のやりとりができる。(Google classroom)
- ・授業の利点授業の一部代替ができる。授業が進みすぎる。ユーチューバーになったみたいだ。通信制の教員になったみたいな気がする。
- ・1回の授業を学年全体の生徒が視聴できれば授業の回数による進度の差がなくなる。生徒側の利点としては、動画を止めて自分のペースで学習できる、が多くあがった。
- ・未だ設定段階なので、どの程度のことのできるのかよくわかりませんが、授業の一部代替や生徒とのコミュニケーションに役立つと思います。

## 新型コロナウイルスの下でのオンライン学習・授業の問題点

- ・生徒の自宅の通信環境不整備
  - ・生徒も教員もなれていないし、環境が整っていないし、手探りですすめるしかない。なにがいいか悪いのかもよくわからないままとにかく進めている。
  - ・職員が操作に慣れるのに少し手間がかかった。生徒の通信環境が整っているにもかかわらず、うまく通信できないケースがあった。
  - ・SHR で使用する場合は、その時間に起きていない生徒がおり、後で電話連絡が必要となり、煩雑となる。
  - ・オンライン学習を実施するためには、教職員・生徒の双方に、情報機器を使いこなすだけのメディア・リテラシーが要求される。本校生徒の場合、対面にて細かな指示を逐一出したり、質問に応じたりしないと学習を進めることが難しい子どもが少なくない。
- このように、設備環境面・それを扱う生徒の知識技能面の両面で、クリアしなければならない問題が非常に多いにもかかわらず、本校学校長はオンライン学習を推進して、授業動画を撮影・配信することを推奨・指示している。生徒の現状を顧みない学校長の姿勢も、大いに問題だと考えている。”
- ・教員の IT スキルに左右される・動画の録画に時間がかかる・家庭の経済状況に生徒の通信環境が大きく左右される・県のサーバーが G-mail を拒否する。
  - ・まだ、本格的に行っていないのでなんともいえない。
  - ・パワーポイントの作成に時間がかかる、動画撮影に不慣れ、生徒の通信環境不整備により、再生回数が

少ない

- ・ネットワークの不具合。配信内容の準備と収録など、時間がかかる。皆が公平に受講できる環境ではない。インタラクティブな授業は難しい。
- ・生徒が操作に不慣れで課題に辿り着けない。自宅の通信環境の不備・プリンターがなくプリントアウトできない（提出に困る）
- ・職員も精通している方はよいのだが、不慣れな方は課題をアップしたりリンクしたり教わりながら取り組んでいるので、問題が多発。”
- ・オンライン授業が得意な教員と、苦手な教員がおり、圧倒的に後者が多い。上記の配信等をしている教員は数人。生徒の方も、半分くらいしか参加してこない。オンライン学習を授業と位置付けられない。あくまでも補助教材。
- ・すべての授業をオンライン配信にするには機材の準備扱いも含めて困難である。挙げられている通りだと思います。
- ・スマホまたはPCの画面を長時間見ることでの健康面での心配
- ・授業動画や小テストは生徒全員が取り組んでいるとは限らないので、取り組み状況の把握が難しい。県から支給されてるパソコンにカメラが付いていないことがまず不便。録画や zoom での授業は多大な労力が必要。zoom 授業はスムーズに行うために、タブレットを2～3台使用したり、生徒からの操作方法等の技術的な質問に対応する教員がついたり工夫することが必要でした。
- ・オンラインには顔を出すのが、全く課題をやっていない生徒もいる為、課題提出を促さなければならない。
- ・生徒も教員もこのシステムに慣れていない。オンラインシステムの活用が不得手な教員・生徒がいる
- ・生徒全員がスムーズに活用できていないわけではない。今までの授業よりも明らかに進度が遅くなる。生徒の通信環境不整備、生徒がどのくらいのレベルで視聴しているか不明、学校に設備（PC や動画編集ソフトなど）が整備されていない
- ・生徒の自宅の通信環境不整備 実習を伴う授業が多くオンライン学習に向いていない
- ・準備が大変。家庭によって通信環境が異なり、かならずしも均質な教育を保障できない。また、2年前に導入したクラッシーは接続が集中したりデータが重いと動かなくなり、県教委が導入を推奨したのに十分機能しないという声がある。
- ・校内で通信環境が整っていない（ハード面も含めて）
- ・こちらも不慣れ、生徒も不慣れで対象生徒を網羅できない。
- ・職員のパソコンにカメラもマイクもないので、オンライン授業ができない。自前のスマホで生徒とやりとりしているが、Wi-Fi が職場に無いので、通信料が半端ない。操作方法が複雑、自主教材づくりが困難、生徒の自宅の通信環境不整備
- ・全ての生徒が環境的に整っていないため、平等性には欠ける。また、学校の機材だけで運用ができるかといえばやや困難である。ICTに関するスキルは教員間でも差があり、それはオンラインでの学習環境を構築できる・できないにつながっていったと思われる。
- ・オンラインの共通のローカルルールがまだ確立できていないので、授業らしさが損なわれている部分もある。学校のネットワーク環境が貧弱、セキュリティの問題で Google のアプリが使えない。授業の再構成が必要（教室での授業をそのまま再現してもうまくいかない）

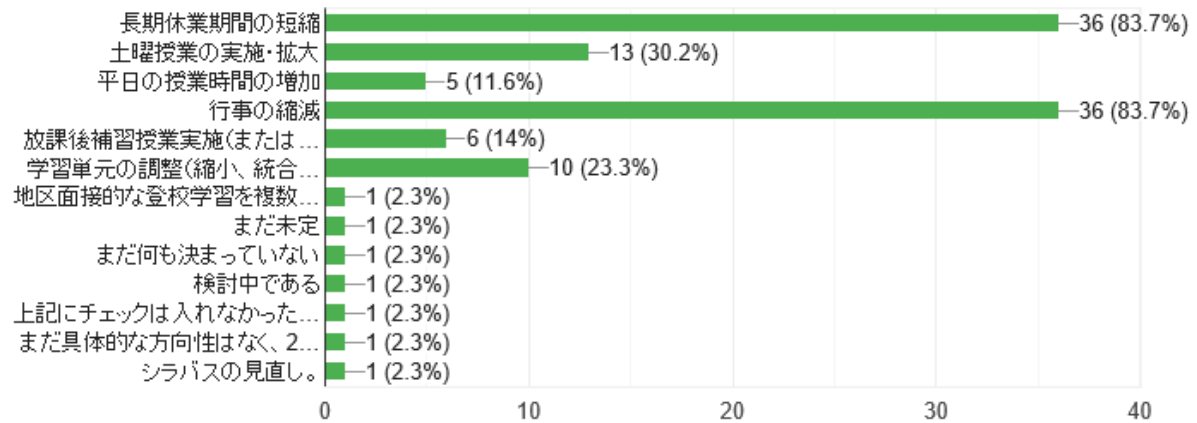


- ・「すらら」の進度に差がつく。パソコン、「すらら」に慣れていない生徒の指導がすぐにできない。
- ・教科による向き不向きや教員の危機感があるかないかが一番の壁になると思う。今回の件だけでなく、今後の教育を考えたときに切り離せないツールになることは疑う余地がない。速やかに全教員が実施まではいかなくとも、常にオンラインを利用できる体制を構築する必要がある。
- ・操作に慣れていない、実習科目の課題、そもそもどこが問題かすらわからないくらいわからないごく一部の生徒はオンライン学習を有効に用いているようですが、多くの多数の生徒はなかなか取り組めていないようです。
- ・生徒の取り組み状況、理解度の把握が困難。
- ・環境が整わないと難しい。報告課題(レポート)があるからいいのでは？一対一で手を入れないと理解できない生徒へのケアはどうするのか？など否定的な意見もある。
- ・本校は比較的機材の準備ができる環境にあり、教員研修の形でズームやグーグルエデュケーションなどへの対応がスムーズにできたと思う。それでも、急に慣れない中で目の前に居ない生徒に向かって授業をすることには抵抗感もあったと思われる。また、オンラインでは生徒からの反応を掴みにくく、予定したことをすべてやりきってしまうので、わからない生徒を置き去りにしているのではないかという不安に常にさいなまれる。
- ・オンラインの授業を展開するには、機材などの環境整備がまだまだで、教員に支給されている PC1つとっても、カメラはなく Wi-Fi 昨日もない低スペックで、それをいちいち教室まで持って行って接続してからでないと使えない。本来の授業にもっとエネルギーを注げるような環境整備をしてほしい。”
- ・生徒によってはデータとして残しており、今後の取り扱いが心配。生徒の反応がわからない。生徒によって見る回数に大きなばらつきがある。(You tube) パスワード、ID の連絡が難。(Google classroom)
- ・生徒が活用しているのか不安。実技を伴うものの授業が困難 体育・芸術・家庭科等
- ・上記回答と同様の意見が多数あり。動画配信のみだと生徒の反応が分からず、一方通行である。実技科目はオンライン授業に限界がある。生徒の視聴状況の把握が難しい。全員がみられないことを考えると評価できないし、結局授業再開後再度解説するという二度手間になった。
- ・カメラやマイクなど授業動画作成のための設備が整っていない。生徒の家庭の通信環境が整っていない。生徒や保護者が通信機器を上手く活用できるかわからない。

## 学校の教育活動について

### 開校後の教育課程について

43 件の回答

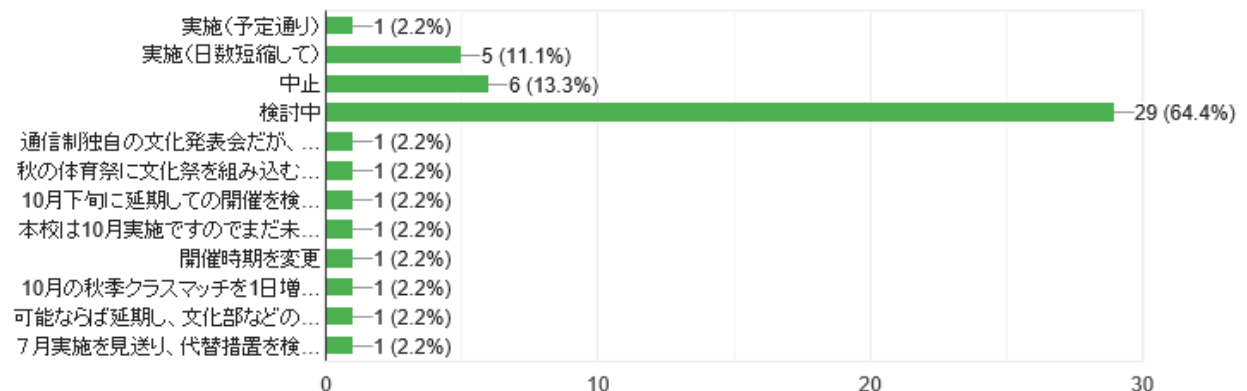


#### 上記グラフの記述で表示されていない部分

- ・ 地区面接的な登校学習を複数回、スクーリング予備日に実施する方向で検討中。
- ・ 上記にチェックは入れなかったが今後進捗の遅れを取り戻すため様々な対応が考えられる
- ・ まだ具体的な方向性はなく、25日以降に臨時職員会を開き、6月からの授業について検討する予定

### 文化祭について

45 件の回答



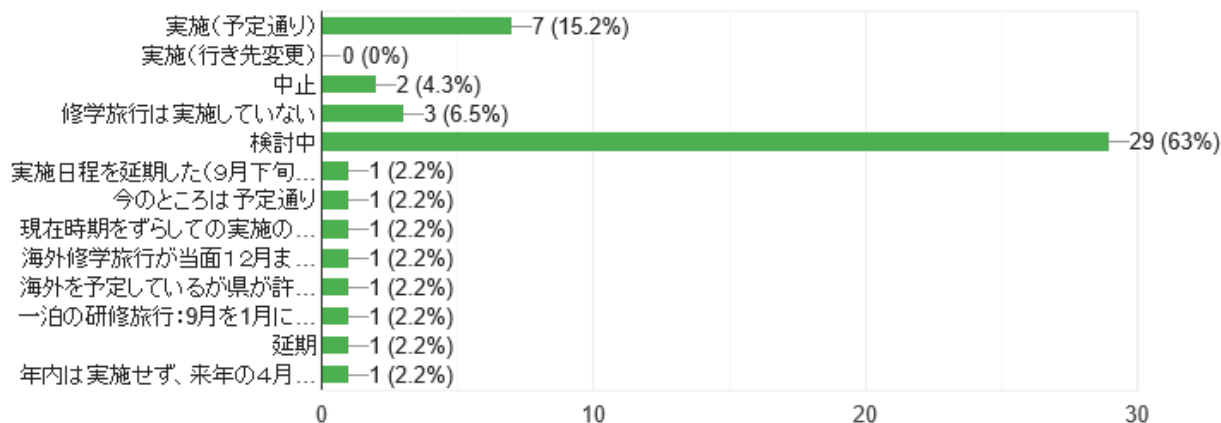
#### 上記グラフの記述で表示されていない部分

- ・ 通信制独自の文化発表会だが、内容について検討中。
- ・ 秋の体育祭に文化祭を組み込む予定
- ・ 10月下旬に延期しての開催を検討。規模は縮小するのもやむを得ない。
- ・ 本校は10月実施ですのでまだ未定です

- ・ 10月の秋季クラスマッチを1日増やし代替の生徒会行事を検討中
- ・ 可能ならば延期し、文化部などの展示発表のみ実施したい。(授業と並行)
- ・ 7月実施を見送り、代替措置を検討する。

### 修学旅行について

46件の回答

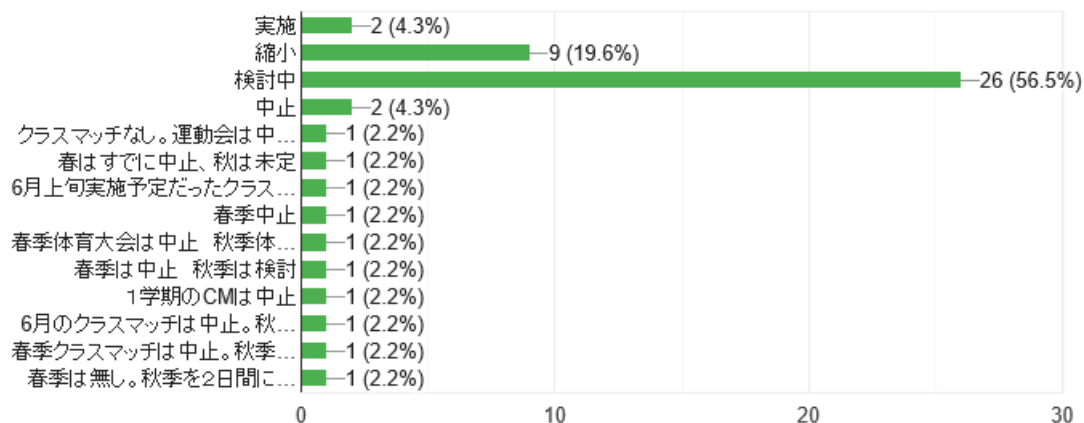


### 上記グラフの記述で表示されていない部分

- ・ 実施日程を延期した(9月下旬→年明け1月下旬)
- ・ 現在時期をずらしての実施の検討を保護者に提案しました
- ・ 海外修学旅行が当面12月まではすべて中止になったので、台湾修学旅行を計画していたが、それは断念することになる。その対応策についてはこれからです。
- ・ 海外を予定しているが県が許可するか未定
- ・ 一泊の研修旅行:9月を1月に延期再検討
- ・ 年内は実施せず、来年の4月までのどこかで実施を検討中。

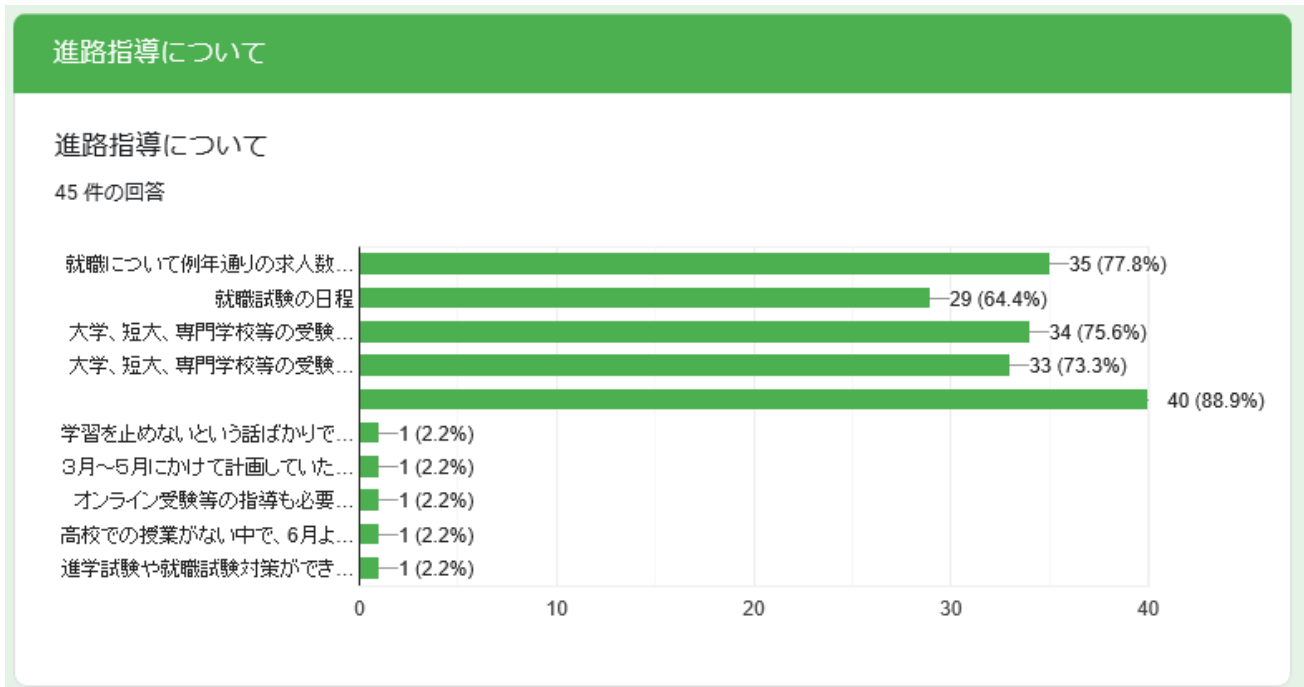
### クラスマッチについて

46件の回答



### 上記グラフの記述で表示されていない部分

- ・ クラスマッチなし。運動会は中止になった。(5/31 実施予定だった)
- ・ 6月上旬実施予定だったクラスマッチは中止です
- ・ 春季体育大会は中止 秋季体育大会は実施の方向
- ・ 6月のクラスマッチは中止。秋は状況により判断する。
- ・ 春季クラスマッチは中止。秋季クラスマッチは検討中。
- ・ 春季は無し。秋季を2日間に伸ばす。



### 上記グラフの記述で表示されていない部分

- ・ 就職について例年通りの求人数があるか
- ・ 就職試験の日程
- ・ 大学、短大、専門学校の受験内容
- ・ 大学、短大、専門学校の受験日程
- ・ 推薦入試、A0入試等の受験方法（緊急事態宣言未解除地域での受験など）
- ・ 学習を止めないという話ばかりで、その先のことについて一切触れられないこと。
- ・ 3月～5月にかけて計画していた進路指導を行う時間が十分にとれるかどうか不安
- ・ オンライン受験等の指導も必要か？保護者生徒等の不安がある。
- ・ 高校での授業がない中で、6月よりA0入試を行う専門学校がある
- ・ 進学試験や就職試験対策ができていない。

### 高校、大学の9月入学について

- ・ 教員の任用期間とのずれ、年歴、諸行事、大会日程などの組み直し、生徒数増加学年への対応、会計年度とのずれ、・・・
- ・ とりあえず来年度は3月卒業ではなく、8月卒業、9月入学にしてあげてほしい。今の高校3年生のこ

とを考えると、必要な学習や様々な体験をせずに、卒業させてしまうのは、「氷河期世代」以上に苦悩を与えることにつながってしまうのではと思う。インターハイも甲子園もなし…。不況で就職もままならず。またコロナの再流行を考えると、冬季の受験期は相当混乱するのではないかととても心配である。様々な社会全体の調整は必要で課題も多いと思うが、「コロナ世代」などと負の重荷をずっと背負わせるよりも、じっくりと時間をかけて、むしろ「9月入学第一期として」送り出してあげるべきではないか。

- ・小中高大就職が一斉にできるか
- ・問題が多すぎてわからない。長年の習慣を変えるのは容易ではない。
- ・進路保証がすべてではないか
- ・日本の場合は四季が明確にあり、その季節に合わせた行事を行っているので、他の国とは違う学校教育の特徴がある。
- ・入学試験をいつの時期にするのか？6月か？
- ・欧米諸国に合わせた場合は、6・7・8月が夏休みになるのか？
- ・高校総体は、いつ頃になるのか？文化祭はいつか？入学式は他国にあるのか？
- ・学校教育に関わる全ての体制を大きく変えないと移行できない。
- ・拙速な対応だけは避けてほしいと考える。コロナ対応のためだけに来年度より9月入学を実施するのは無謀ではないか。きちんと議論を重ねた上で、実施するにしても猶予のある計画的な実施を望む。
- ・教育界だけでなく、日本社会全体の年度始まりが9月に移行しない限り現実性は無い。
- ・9月入学にする目的は、「現状の課題を解決するため」が第一義だと思うので、9月入学の課題より、まず、現状の課題を洗い出すことが必要ではないか。現状の課題は、「2か月授業が無くてちょっと授業が遅れている」程度のものではないと思うので。それが9月入学により解決できるのかという見方が大切ではないか。解決できなければそもそも意味がない。その上で、9月入学の課題は何か？ということになるのでは。出発点の方が明確でないのに、9月入学の課題を挙げて意味がないように思われる。
- ・コロナ禍からこの問題へ移ることはおかしい。高校・大学9月入学は別問題。
- ・部活動などの教育活動などの調整
- ・私個人の考えですが、9月入学になるにしても、今年は無理。学校だけで世の中が回っているわけではないので、各所との調整に数年かかると思われます。
- ・社会全体にかかわることであり、簡単ではないのでは。
- ・このまま進めるにしろ、9月にするにしろ、問題はたくさんあります。どちらに利があるのかは、立場とか考え方によって異なるだけでしょう。実利的な面でどちらが正解なのか判別が付きません。個人的にはリセットできるのならさせてあげたいと思っています。
- ・やってみないとわからないが、初年度の予想外の混乱に対する対応など。学校行事や総体の実施時期の検討など。
- ・特に反対ではない。メリットは流行性の病が発生しにくい時期に入試ができること。デメリットは社会すべての流れを変えかねないこと。来年度から導入するのは性急と思う。もっと議論の余地がある。
- ・「コロナ禍の3年生のために」という話ならば反対。3年生に2ヶ月分のロスがあるならば、授業時間を増やすなどの無理を強いるのではなく、生徒に負担がかからない方法を模索すべき。特例として、

35週を25週にしたり、実情に見合った入試内容にしたり、今できることを議論すべき。今年度を1.5年にすることで、現場や社会に混乱が生じるのは当然。様々なものを奪われてきた生徒（なおかつ今後の生き方は様々）に、更に重荷は背負わせたくない。

- ・高校、大学だけでなく、幼稚園・保育園、小学校、中学校も9月入学にしなければならないので、社会全体が動くことになります。
- ・学校だけでなく、経済活動や行政も一斉に対応を変えていくことになるので、日本全体で意識を持って変えていけるかどうかが一番の問題だと思います。  
また、学校で現在行っている行事の時期をそのままスライドすると文化祭等は冬に行うことになるので、行事の見直しも行わないといけないと思います。
- ・就職や資格試験等の時期も同時に変更されるのか。教員の退職時期はどうなるのか心配している先生もいました。
- ・もし検討を行うのならば、諸外国同様に飛び級も認める必要がある。
- ・学校では特に話題として上がってきていない。
- ・世の中が学校の暦と連動しなければ9月入学は混乱を招く。待機児童問題もあり、また一定期間生徒数が増加し教職員を大幅に増やす必要がある。新聞等でも示されているが、移行期間を設ける場合も現場に非常に負担をかけることになる。宇来年実施は現実的ではない
- ・9月入学と決めて、整えていけばよい。
- ・個人的には賛成。生徒のことだけ考えれば、雪の降る時期の入試は避けたいし、インフルエンザにはかかりたくないの、良いと思います。教員的にも新学期の準備を夏休みにできるのは魅力的です。
- ・受験日程を含めた年間スケジュールが構築できない。
- ・（すぐにでも実施となれば）準備にかかる時間・人員不足
- ・変更に伴う移行期間で、混乱がおりそう
- ・時間をかけて取り組むべき問題
- ・国内でのコンセンサスの獲得
- ・今後の移行期間のずれ、行事の大幅な見直し
- ・教文委員の個人的意見です。9月入試は、いろいろな高校生の行事が失われてしまった今年度行わないと意味がありません。ところが、あと3か月でこれを決めるなんてことは不可能です。ですから、9月入学自体不可能であると考えます。
- ・グローバルスタンダードに…はわかります。ただ、今日の前にいる子どもたちのことが考えられていないこと。特に、卒業学年にあたる者たちのことが一切考えられていないことが問題です。
- ・社会全体を巻き込んだ大きな問題なので、学校としてどういう問題ではないと思う。メリットもデメリットもあると思う。
- ・必要はあるかもしれないが性急すぎて回答できない。高校生にとって一番成長する1学期がないのは酷すぎる。
- ・入学時期が他国と違うので検討すべき。しかし、様々な立場や視点からじっくりと検討する必要がある（個人的な意見）。
- ・就職に関わる日程が変わらなければ高校・大学の入学月を変更できないでしょう。
- ・急な導入では様々な方面に影響が大きく支障が多いので、対応が間に合わない。

## 学校活動に必要な緊急の対応と対策について

- ・コロナ騒動でわかったことは、格差のある社会はやはり感染症には対抗できず、医療を受けられなかったり、無知や無理解な状況に取り残されたまま、社会的な弱者を中心に多くの犠牲者が出てしまうということ。他国の状況に比べると日本は今のところまだましなのかと思うが、ICTの導入にしても、やはりひとり親の子どもたちなど、経済的にたいへんな方たちがさらに辛い思いをするという状況が出てきている。「ポストコロナ時代」という言葉がマスコミにも出てきているが、これまでの格差をなくしていく方向性を持ってもらいたい。
- ・情報を早く回して欲しい
- ・対応予算を速やかに用意して欲しい。感染防止にキーボードにカバーをつけたいのだが、予算がない。
- ・とにかく就職がどうなるのか、入試はどうなるのが心配である
- ・校内でコロナ感染の生徒が出た場合、養護教諭1人で対応できるのか。
- ・登校時に検温できるように赤外線体温計などが必要である。
- ・トイレが洋式化されたが、便器の消毒液などを各個室に設置してほしい。
- ・通常の日課になった場合、ドアノブ・スイッチなど多く触る箇所の消毒などは誰がどのように行うか。
- ・教員がマスクを着用して授業を行う場合、これから暑くなるので熱中症などの危険性がある。
- ・特に基礎疾患がある家族がいる家庭では、多くの生徒が集まる学校での感染リスクを心配している。
- ・生徒と家庭の現状をきちんとふまえた施策を望む。
- ・(保護者) オンライン授業を始めてほしい。(教職員) 毎年行われるべき検診や授業内容の確保に向けて、6月以降の県教委の指針を早く示してほしい。(生徒) 文化祭を出来る限り従来通りの形で行いたい。
- ・生徒もそうだが、学校のオンライン環境も整えていただきたい。
- ・オンラインを利用した学校活動を考えるのであれば、生徒すべてに通信機器とその環境(Wi-Fi環境)を整えるべき。また情報専門の教員がそれぞれに配置されるべき。
- ・新しい学習活動様式の模索・安全なクラブ活動の様式模索・安全衛生管理の模索・生徒保護者の進路への不安や心身の不安への対応 ・公共交通機関を使う登下校への安全対策? 等
- ・今後の見通しが全く立たず、生徒、保護者ともに不安を感じている。
- ・新しい生活様式をいつまで続けられるか。これから夏になり、暑くなるのでマスク着用など生徒もそうだが教員もつらい。どこまで着用を求められるのか。だんだん崩れてきそう。学校で体調を崩した生徒は、早退させることにしているが、いつまでそうすればいいか。
- ・3年生の進路保障
- ・自粛が長引く中、生徒の気持ちが内向している。感染対策を立てつつ一刻も早く平常な状態に戻す必要があります。
- ・生徒同士の話し合いやグループワークが行えるようにしたい。
- ・コロナ感染症リスクの低減の徹底。生徒や職員等、感染した場合のケア。
- ・県から指示される内容が後手後手であり、職員会で決めて保護者や生徒に通達した内容が、後から出た通知で反故にされることがある。いつどんな変更が起きるかわからないため、生徒も学校に目が向いていない。国の様子見ではなく、長野県としての方針をはっきりさせてほしい。その上で、感染が拡大されそうな場合には素早い対応をしてもらいたい。

- ・ 6月からは40人で授業することを許可するという案が27日には県から降りてくるようだが、依然感染のリスクはある。学校でコロナにかかった者が出た場合、どんな対応になるかのマニュアルやチャートなどがほしい。
- ・ 感染を恐れて登校できない生徒たちの対応を今後どうしていくのかも指針がほしい。
- ・ 情報発信をできるだけ早く行って欲しい事。
- ・ 今回の休校では新入生が人間関係を構築できないまま、2ヶ月経ってしまったので不安になっていると保護者から連絡がきました。カウンセリングや相談窓口をできるだけ早めに運営できるようになるとありがたいです。”
- ・ 大変な状況の中なので仕方ない部分はあるが、指示が直前だったり曖昧なものであると教職員も生徒も保護者も混乱する。県には先を見越した明確な指示をお願いしたい。また、オンラインツールの活用を促進するのであれば、一刻も早く環境を整えてほしい。学校ではwifiも使えないので生徒も教員も不便を感じることもある。
- ・ 3密な状況なので、クラスの人数を減らして、1クラス30人学級を目指すべきである。
- ・ 今回の休校で、生徒会行事をはじめとした学校行事、クラブ活動、学校での様々な交流がいかに大切に再確認した。生徒たちが学校生活を張り切れるよう授業回復以外のケアや対策が必要だと強く感じる。休校が長く、またさまざまな活動が中止・延期され、生徒のメンタルケアが必要。県には感染予防に必要な消毒液等の物品を供給（予算措置）してほしい。進路をひかえた3年生への不安を和らげることも大事。来年の入試情報（日程などの変更）についての情報を早く知らせたい。コロナ不況による求人減が予想されるので、就職先の確保も関係部局をお願いしたい。
- ・ ICTを活用して乗り切れ、と言われますが、圧倒的にハード面が不足しており、やりたくてもできません。せめて、すべての職員にカメラ付きで映像処理が可能なスペックのPCとWi-Fiを整備してほしいです。生徒にも1台ずつchromebookを支給してください。消毒薬も足りないし、マスクは一度も支給されていません（全部自分持ちです）。
- ・ 職場として異常な状況であるのに、上層部にはその意識がありません。40人で授業を再開することになったと知った外部の方から「パチンコ屋よりひどい環境だ」と言われました。こんな環境で、生徒も自分も守れる自信がありません。
- ・ まずは生徒が安全に学校で過ごせるだけの備品（マスク、ハンドソープ、消毒薬等）を十分に確保することだと思えます。
- ・ さらに生徒にすぐに清掃を任せるわけにもいかず、消毒作業等は職員の負担です。授業がスタートすると、職員の負担も増加します。何らかの人的配置がほしいところです。  
その上で、オンライン学習を進めていく上での機材整備等が必要でしょう。
- ・ 時間数合わせの授業時間確保ではなく、個別の生徒に対応した学習ができる環境の整備。（教職員） 進路に不利にならないような対策（生徒）
- ・ クラブ活動の各種大会の開催について早く方向性を示してほしい
- ・ 長野県や学校としての独自性。国の決定に依存し、責任の所在が明確ではない。
- ・ ①3年にとっては進路決定のシナリオを早急に提示してあげなければいけません。  
②1年にとっては、まだまともな登校がほぼできていないので、高校というところがどんどころかすら知らない上に、3か月以上学校から遠ざかっており、一部の生徒は言い方は悪いですが「怠け癖」が



つき始めてしまっています。これをどのように正常な状態にもっていくか、ということではないでしょうか。

- ・学校は安心・安全な場所であるべきはず。なのに、再開することばかりを迫られて、対策を講じると予算が配当されるでもなく、物品が来るわけでもない。各学校によって対策が違ってきているのも事実。実技科目は何もできない状況。ここにいる生徒たちは卒業を目指して日々努力しています。しかし、裕福な家庭の子とは違って、今経験できなければこの先ずーっと知らずに終わってしまうことが多々あります。だからこそのいろいろな経験をさせて社会に出さなければならないと思っていますが、手をこまねいているだけ。歯がゆいばかりです。全日制の高校生はアルバイトのシフトから外してもらおうよう事業主をお願いするよう話がありました。しかし、通信制に通う生徒たちは家計を担っている者も多く、そういうわけにはいきません。かたやオンライン教育がどんどん行われて学びが進んで思うような未来を築いていく高校生、かたや必死で家計を支え、レポートを取り組む高校生の格差は大きくなるばかりです。
- ・DNDなどの対応ではZoomなどへの対応ができないため、県の補助の対象にならなかった生徒への対応が必須。マスクを着用しての授業は暑さが増す中で大きな負担になっている。フェイスシールドの着用を始めたが、教員への負担が大きすぎる。
- ・40人学級は明らかに3密です。20人・30人学級が今後必要になっていくでしょう。一斉休校・非常事態宣言は急で十分な準備ができない。感染症予防の消毒体制も十分でなく不安。仕方がないが2次感染に非常にデリケートになっている。従来の学校活動は今後新しい生活様式の名の下に消滅してしまうのでしょうか。部活動を目的に入学した生徒もいて目的を失って中途半端になっている状態。
- ・有効な飛沫予防対策を知りたい。(本校は教員がマスクと必要に応じてフェイスシールドをつけることになっているが、暑い、メガネが曇る、息苦しいなどの問題がある)
- ・クーラーの無い特別教室では、特にこれからの季節、3密を避け、飛沫予防をしてどのように授業を行えばよいのか、得策を知りたい。
- ・手洗い場が圧倒的に少ないため、手を洗うときに3密になってしまう、良い方法はないか。
- ・休校が長引いたため、もともと不登校傾向にあった生徒が日常生活を取り戻すことが困難になっていないか。どのように対処していけばよいか。今後カウンセリングの時間数を増やすなどの必要が出てくるのではないか。
- ・消毒薬・マスク・ハンドソープが不足している。休み時間に生徒が密集・密接するのは防げない。大人数の職員室では密集は解消できない。30度を越えるようになった教室でマスク事業は生徒も職員も大変です。エアコンは7月にならないと使えないのでしょうか？
- ・就職や進学など進路指導についての対応対策が一番緊急だと思われる。